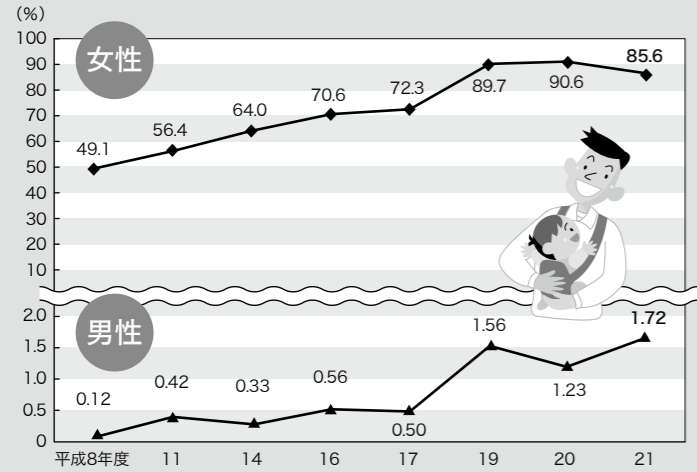


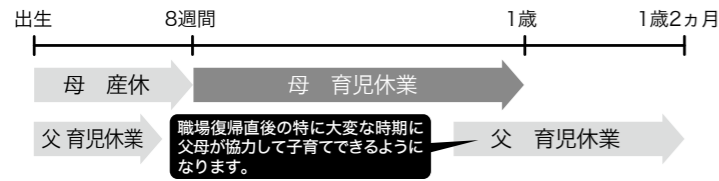


育児休業取得率の推移



出産者のうち、調査時点までに育児休業を開始したもの(開始予定の申出をしている者を含む。)の数
 育児休業取得率 = $\frac{\text{出産者のうち、調査時点までに育児休業を開始したもの(開始予定の申出をしている者を含む。)の数}}{\text{調査前年度1年間の出産者(男性の場合は配偶者が出産した者)の数}}$
厚生労働省 平成21年度「雇用均等基本調査」より

育児・介護休業法改正後の取得例



企業にとって、育児休業の取得促進など、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現することは、優秀な人材の確保、生産性の向上などのメリットがあり、成長戦略の一つとして位置付けられています。

中小企業でも、従業員が生き生きと働き続けられる柔軟な環境づくりが、業績アップにつながった事例が多くあります。

国もいろいろな支援制度を設け、両立支援企業をバックアップしています。

企業にとってのメリット

企業にとって、育児休業の取得促進など、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現することは、優秀な人材の確保、生産性の向上などのメリットがあり、成長戦略の一つとして位置付けられています。

中小企業でも、従業員が生き生きと働き続けられる柔軟な環境づくりが、業績アップにつながった事例が多くあります。

国もいろいろな支援制度を設け、両立支援企業をバックアップしています。

育児・介護休業法が改正

育児・介護休業法が改正され、今年6月30日に施行されました。

主な改正点として①配偶者が専業主婦(夫)や育児休業中であっても、育児休業の取得が可能②父母ともに育児休業を取得する場合、子どもが1歳2カ月に達するまでに休業可能期間が延長③出産後8週以内に父親が育児休業を取得した場合には、特別な事情がなくても再度の取得が可能など、これまでより取得しやすくなりました。

企業向けの国の支援制度

※詳しくは、厚生労働省ホームページを参照ください。

I 中小企業子育て支援助成金

一定の要件を備えた、育児休業取得者が初めて出た中小企業事業主(労働者数100人以下)に助成金が支給されます。

II 事業所内保育施設設置・運営等助成金

事業所内に労働者のための保育施設を設置・運営したときに助成金が支給されます。

III 両立支援レベルアップ助成金

①代替要員確保コース

育児休業終了後、育児休業取得者を原職または原職相当職に復帰させる旨の取扱いを労働協約または就業規則に規定・代替要員の確保・育

児休業取得者を原職などに復帰させた事業主に、一定額助成されます。

②休業中能力アップコース

育児休業者がスムーズに職場復帰できるよう、職場適応性や職業能力の維持回復を図る措置(職場復帰プログラム)を実施した事業主・事業主団体に支給されます。

③子育て期の短時間勤務支援コース

小学校就学前(小規模事業主は3歳)までの子を養育する労働者が利用できる短時間勤務制度を労働協約または就業規則に規定し、これらの制度を連続して6カ月以上利用した場合に、事業主に支給されます。

④育児費用等補助コース

労働者が、育児に係るサービスを利用する際に、それに要した費用の全部または一部を補助する制度を労働協約または就業規則に規定し、実際に費用補助を行った事業主および育児に係るサービスを行うものと契約し、そのサービスを労働者に利用させた事業主に対して、事業主が負担した額の一定割合が助成されます。

現在、約3割の男性が育児休業を取得したいと考えています。実際の取得率は1・72%と大変低く、希望と現実に大きな差があります。

その原因として、休業中の収入の問題や「職場に迷惑をかけるのでは」「昇

父親の育児休業

極的に育児にかかわるよう一大ムーブメントを巻き起こすべく、今年6月に「イクメンプロジェクト」を発足。ここでは、育児体験談や企業の事例の紹介、セミナーなどを行っています。

また、雇用保険からの給付や、有給休暇と組み合わせ、出産後の身体がしんどい時に家事を協力するなどすれば、妻も助かり気分転換もできます。

「子育てを通して経験したことが、仕事にも良い影響を与えた」という声があります。

しかし、育休をとった男性からは「妻の大変さが分かって、家事などを協力するようになり、夫婦の絆が深まった」「育休を通して経験したことが、仕事にも良い影響を与えた」という声があります。



「イクメン」とは、育児(イクジ)を積極的に楽しむ男性(メンズ)のことです。仕事はもちろん、家庭や子育ての時間も大切にしたいと考える男性が増えていきます。父親が子育てに関わることは、子どもだけでなく父親自身の成長にとっても、夫婦関係にとっても大切なことです。

イクメンを通して、「仕事と家庭」について考えてみましょう。

Special Features No.2

特集

育男 [IKUMEN]

イクメン

仕事も子育ても大切にしたい!!

10月は「仕事と家庭を考える月間」です。



家庭を大切にとは思っけど...

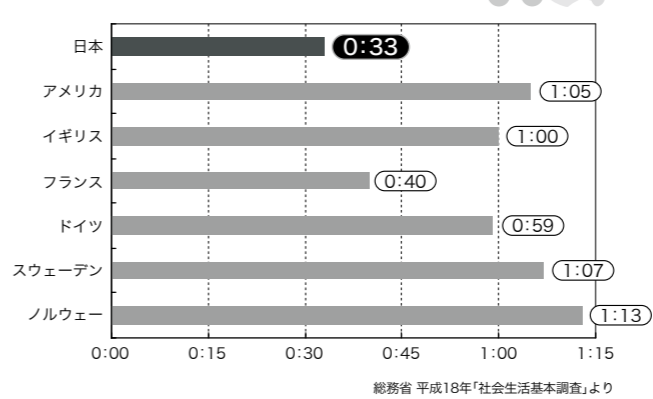
家庭や子育ても大切にしたいと考える男性が増えているものの、日本の男性が家事・育児にかかわる時間は、先進国の中でもとても短く、妻が専業主婦であっても、共働きであっても、1日の育児時間は約30分という結果が出ています。

これは、男性の長時間労働や、会社に遅くまで残っているほど仕事熱心だとみなされる風潮なども影響していると考えられます。

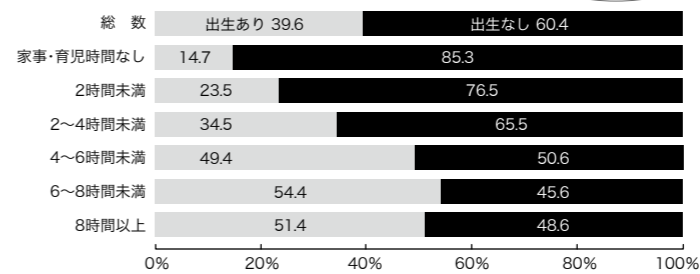
イクメンは社会を変える!?

日本では少子高齢化が急速に進行

6歳未満児を持つ男性育児時間



夫の休日の家事・育児時間別にみたこの6年間の第2子以降の出生の状況



注:1)集計対象は、①または②に該当する同居夫婦。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。
 ①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 2)家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第6回調査時の状況。
 3)6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。
 4)総数には、家事・育児時間不詳を含む。

厚生労働省「第7回21世紀成年者縦断調査」より

しており、出生率の回復と、労働力人口の確保が大きな課題になっています。

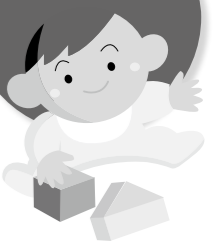
この課題克服に「イクメン」の存在が注目されています。

イクメンが増えることは、妻である女性にも影響を及ぼします。

夫の家事・育児時間が長いほど第2子以降が生まれる割合が高いという統計もあり、出生率の回復や女性の就業率の向上などが期待されています。



市内にも育児に積極的なイクメンがいます。
そのうち二人にお話しを伺いました。



山本 貴央 さん
39歳 西本町

「育児へのかかわりは少しずつ、無理しないこと」と山本貴央さんは笑顔でこう語ります。

市内の製造会社に勤務する山本さんは、専業主婦の美代子さんと愛娘の唯乃ちゃん(1歳2カ月)の3人で、市内にアパートを借りて生活しています。

「帰宅はいつも夜8時から9時くらい。本当はもう少し早く帰りたい」と理想を語る貴央さんは、帰宅するとすぐ唯乃ちゃんをお風呂に入れるのが日課。お風呂を済ませると服を着せ、一緒にご飯を食べた後、食事をかたづけ、唯乃ちゃんを寝かし付けます。

「はつきり言っていたいことはしていません。でもオムツ替えは得意ですよ」と謙遜して話す貴央さん。唯乃ちゃんが寝付いた後は、毎日、今日の出来事を振り返る夫婦の時間にしていて、ほとんどが唯乃ちゃんの話題になるといいます。

そんな貴央さんも、最初から積極的に育児にかかわっていたわけではありませんでした。唯乃ちゃんが産まれて間もないころは、帰宅しても特に何もすることなく横になってテレビを見るなど、育児はほとんど美代子さんに任せっきり。そんな状況が続いたある日、美代子さんの我慢が限界に達し、積み重なった不満を爆発させま



唯乃ちゃんの遊び相手はいつも貴央さん

した。「なんで何もしてくれんのか!手伝ってよ!!」。貴央さんは「こんなに思い悩んでいたのかとショックを受けました。だけどこの言葉がきっかけでようやく目が覚めた」と胸の内を語ります。それから見えるように育児に関わるようになった貴央さんに、美代子さんは「身体的にも気持ち的にもすごく楽になった」とうれしそうに話します。そんな美代子さんになるべく負担をかけまいと、苦手な食事づくり以外は自分ができる範囲で何でもするように心がけている貴央さんは、で

きるだけ育児に関わる時間を増やしたいと、早く帰宅できるように始業時間よりも1時間以上も早く出勤して仕事をこなしています。「何をしないといけないということではなく、できることを少しずつするだけでいいのは、自分がそうですから」と同じ子を持つ父親に向けてアドバイスを送ります。近く、ひだまりの会の勉強会に行くという貴央さん。「妻にも少しは遊びに出かけられる時間をつくってあげたい」とさらに上のイクメンを目指します。



小野 英人 さん
34歳 東城町

「とにかく子どもが大好き」と話す英人さん。

現在、東城町内の医院へお勤めの英人さんは、妻の夕妃さん、長女の友莉ちゃん(9歳)、次女の友愛ちゃん(8歳)、長男の太士くん(6歳)の5人で自宅に暮らしています。

英人さんは、男性では珍しい「育児休業」取得者として、地域でも話題になりました。

平成16年9月に、小野さん夫妻にとって3人目の子ども太士くんが誕生。当初は、友莉ちゃん友愛ちゃんの時と同じく夕妃さんが育児を取るつもり

でしたが、産休明けが近付いたころ、勤務先の状況が心配になった夕妃さんが英人さんに相談しました。小野さん夫妻は、子どもが1歳になるまではできるだけ親の手で育てたいと思っていたので、「妻がだめなら、じゃあ自分」と英人さんが一念発起。

まずは、とにかく職場にお願いしてみようと、当時の勤め先の上司のもとに夫婦で足を運びました。「不安がありました。同僚も驚いていましたが、反対することなく気持ちよく背中を押してくれました」と当時の振り返ります。業務の引継ぎもうまくいき、夕妃さんの産休明けから約10カ月間の育児休業に入りまし



「子育ては、家族に食事を作ってみる。週に一日は、仕事を定刻で切り上げて家族とゆっくり過ごす。まず、まずはできることから始めてみませんか。そして、育児にかかわることをきっかけに「自分にとって働くこととは」「どんな人生を送りたいか」など、考えてみてはどうでしょうか。」



今年3月 男性の家庭参画講座「パパとつくる絶品?手打ちうどん講座」の様子

た。「上の2人のお姉ちゃんをみていたので、ある程度はやれる自信がありました」と英人さん。太士くんの世話、洗濯掃除などの家事もうまくこなせました。ただひとつ料理だけは違ったと言います。「何度か夕食を作りました

が、もともと料理は苦手な手際も悪くせんぜんダメでした。これを毎日続けるくらいなら働いたほうが楽だと思いました。夕妃さんの苦勞やすごさを身をもって知った英人さんは「子どものいる男性には、ぜひ自分と同じ経験をして欲しい」と呼びかけます。夕妃さんも「育児が重労働であることを知ってくれただけでもよかったです」と喜びを語ります。ただ、男性の育児休業取得は、周りの環境やサポートがないと無理と言いつつ、今の職場では、仕事をみんなで習い、みんなでできるようにしていこうと話しています。自分と同じように、育児や介護などで休みが必要な職員が気持ちよく休めるような職場環境を整えたいと語る英人さん。

イクメン、育児子育てに関する悩み、疑問、問い合わせなどは、女性児童課子育て支援係(☎0824-731-0051)または男女共同参画係(☎0824-731-243)へお気軽にお電話ください。